

気象災害委員会・メソ気象研究会合同研究会

日時: 2019 年 10 月 27 日(日)大会前日 13:30~17:30

場所: 九州大学西新プラザ 大会議室 AB 福岡市早良区西新 2-16-23

<http://nishijinplaza.kyushu-u.ac.jp/>

テーマ: 「フェーズドアレイレーダーによる気象災害研究の新展開」

コンピーナー: 足立透(気象災害委員会), 坪木和久(メソ気象研究会)

内容: 局地的大雨や竜巻等突風といった激しい大気現象は甚大な災害を引き起こすため、学術的な理解の深化と監視・予測技術の高度化が重要な課題となっています。このためには、急速に発生・発達する現象の様子を極めて高い時空間分解能で観測する技術が必要です。近年に登場した気象用のフェーズドアレイレーダーは、最短で 10 秒という短い時間で全天をスキャンするため、気象災害をもたらす大気現象を素早かつ確に捉えることを可能とし、高度な防災気象情報につながることを期待されます。今回は、フェーズドアレイレーダーに関する研究開発をテーマとして取り上げ、最新の成果と今後の展望について議論することを目的とします。

プログラム:

13:30-13:40 開会挨拶・趣旨説明

13:40-14:10 「フェーズドアレイ気象レーダの開発概要」牛尾知雄(首都大)

14:10-14:40 「実用型マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダ(MP-PAWR)の開発」高橋暢宏(名大宇地研)

14:40-15:10 「東京オリンピック・パラリンピック等における MP-PAWR による観測・予測情報の利活用に向けて」岩波越(防災科研)

休憩

15:30-16:00 「気象研究所フェーズドアレイレーダーを用いた最新の研究成果とその応用」足立透(気象研)

16:00-16:30 「C バンド二重偏波フェーズドアレイレーダを見据えた新しい技術開発」松田知也(三菱電機)

16:30-17:00 「フェーズドアレイレーダーを用いた研究開発への期待」新野宏(東大大気海洋研)

17:00-17:30 総合討論 中川勝広(情報通信研究機構)

世話人: 足立透(気象研), 坪木和久(名大宇地研), 加藤輝之(気象大学校), 小倉義光(東大大気海洋研)

問い合わせ先: 足立透(気象研)

E-mail: tadachi@mri-jma.go.jp